

320) 撮影

前の会社にいたときの話で、とある南の島にコマースシャルの撮影に行った時のことでもあります。この島はもともとスタジオがわりに冬は春の撮影に、春は夏の撮影によく使うところなのでありますが、我々は真冬の1月下旬に春の景色を求めて、はるばるとやってきたのであります。初日に到着するとすぐにロケハンと称して、どこで撮影するかを目星を凡そつけるのでありますが、運良く海を見下ろす丘の上に、とても素晴らしい場所が見つかって、一同ほっとしてその晩は早めに打ち合わせをすませて、翌日はほとんど夜明けとともに撮影することになったのであります。

さて翌朝はまだ暗いうちから機材を整えて現地に行くと、ちょうど朝日が昇った所で、昨日にも増して素晴らしい光景になったのであります。順調に撮影カットをこなしていると、何やら我々と同じような輩がロケバスを連ねてやって来るではありませんか。よくよく見ると、その一行は我が社の売れっ子プランナーの『加藤某』ではありませんか。そしてそのコーディネーターをしているヒゲのお兄さんがやってきて「誰の許可をとってここで撮影してるんだ」と恫喝するのであります。当方がしどろもどろになっていると、ここに植えられている花も、向こうに置かれている白いテーブルや椅子も、今日の撮影のために1週間も前から植え込んだり仕込んだりして、天候待ちをしていたと言うのであります。どおりで良くできていると思った。イヤイヤ感心している場合じゃありません。我々は撮影済みのポジの没収は免れたものの、撮影済みのポジの使用に関しては事前にチェックを受けるという屈辱的な約束をさせられて、すごすごと引き返したのであります。